

BrightStor ARCserve Backup v9 製品をお使いになる前に

この度は、BrightStor ARCserve Backup v9 (以後 ARCserve と表記) 製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本書は、ARCserve 製品の留意事項について記載しております。製品ご使用の前には必ず、本書、および別紙「困ったときに」をお読みください。

- 目次 -

全製品共通	2
BrightStor ARCserve Backup	5
1 . インストール時の留意事項	5
2 . バックアップ運用時の留意事項	6
3 . リストア時の留意事項	7
4 . その他の留意事項	7
Disaster Recovery Option	9
1 . OS共通の留意事項	9
2 . Windows NT 4.0環境の留意事項	10
3 . Windows 2000環境の留意事項	11
4 . Windows Server 2003 環境の留意事項	12
5 . MO装置が接続された環境での留意事項	12
6 . その他の留意事項	13
Image Option	15
Backup Agent for Oracle	17
Backup Agent for Microsoft SQL	19
Backup Agent for Microsoft Exchange	20
Backup Agent for Lotus Notes	21
1 . 各Version共通の留意事項	21
2 . 「Lotus Notes / Domino Agent, BAOF Version」の留意事項	23
3 . 「Lotus Notes / Domino Agent, NA Version」の留意事項	23
Backup Agent for Open Files	24
Network Attached Storage (NAS) Option	25
Client Agent for Windows	26
Client Agent for Linux	27

全製品共通

- ・ご購入になった製品の詳細情報について、**CD-ROM 内のリリースノート**を必ずお読みください。以下のいずれかの方法でご参照ください。

「BrightStor ARCserve Backup」CD-ROM 起動時

「BrightStor ARCserve Backup」CD-ROM を挿入後に表示されるマスタセットアップ画面にて、「ドキュメント」を選択してご参照ください。



BrightStor ARCserve Backup マネージャ

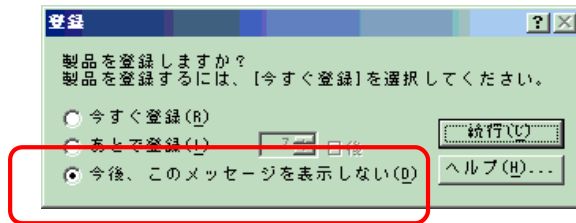
BrightStor ARCserve Backup マネージャ内の「はじめにお読みください」よりご参照ください。



- ・ ARCserve 製品のその他の留意事項および、最新の技術情報等については、コンピュータ・アソシエイツ社（CA 社）の以下の WEB サイトをご覧ください。

<http://www.caj.co.jp/support/bab9/>

- ・ 製品のインストール時、またはインストールを行った日から 30 日以内に、ご購入になった製品のライセンス登録をしてください。ライセンス登録を行わない場合、31 日を経過すると動作が停止します。ライセンス登録については、別紙「* 注意 * この製品にはライセンス登録が必要です」をお読みください。なお、ユーザ登録（CA 社に対する登録）は必要ありません。インストール後に表示される以下の画面では、「今後、このメッセージを表示しない」を選択してください。



- ・ ライセンス登録を正常に行うために、ライセンス登録画面では、必ず「ライセンスキーを使用」にチェックをした状態で、[続行]をクリックしてください。
- ・ 本製品のライセンスキーおよびパッケージは、紛失されても再発行できません。大切に保管してください。
- ・ インストール時の「製品の選択」画面では、ご購入の有無に関わらず、デフォルトで以下の製品が選択されます。選択されている製品を必ず確認し、必要に応じて、選択および選択を解除してください。

《ローカル インストール》

[BrightStor ARCserve Backup マネージャ / サーバ] が選択されます。

《リモート インストール》

[Client Agent for Windows] が選択されます。

《データベースアプリケーションがインストールされている環境》

各データベースエージェントが選択されます。例えば、Microsoft SQL Server がインストールされている環境では、[Backup Agent for Microsoft SQL] が選択されます。

- ・ インストール時の「製品の選択」画面に表示される、「BrightStor ARCserve Backup 診断ツール」は、製品トラブルが発生した際に、原因調査のための情報（システム環境、各種ログファイルなど）を収集するプログラムです。特に、

ARCserve サーバモジュールをインストールするマシンには、「BrightStor ARCserve Backup 診断ツール」をインストールしておくことをお勧めします。

- ・サイレントインストールを行う際、レスポンスファイルの保存先パスにスペースが含まれる場合、プログラム実行時にパス名を「" "」で囲んでください。

例： CDdrive:¥install¥mastersetup.exe /i:"c:¥setup temp¥Setup.icf"

- ・リモートインストール後、リモートマシン上に以下のディレクトリが残ることがあります。その場合は、インストール完了後、手動でディレクトリを削除してください。

%SystemRoot%ASOPTEMP

- ・製品のアンインストールを行っても、ライセンス登録関連のサービス、レジストリ、フォルダ/ファイルは削除されません。

BrightStor ARCserve Backup

1. インストール時の留意事項

- ・本製品のインストールには、Internet Explorer 5.5 Service Pack 2 以上がインストールされている必要があります。
- ・Windows 2000/Windows Server 2003 ドメインコントローラ環境に本製品をインストールする場合、Active Directory のインストールを行った後で、本製品をインストールしてください。
本製品のインストール後に Active Directory のインストールを行うと、アクティビティログに以下のエラーが表示されます。このような場合は、システムアカウントを再設定してください。

E3073:ユーザとしてログオンできません (マシン名¥Administrator.エラー
=LOGON FAILURE)
- ・ARCserve 2000 (BrightStor ARCserve 2000) をインストールした環境には、自動的に InoculateIT がインストールされます。ご使用になっていない場合は、本製品のインストール前に、あらかじめ InoculateIT をアンインストールしてください。
- ・ARCserve でバックアップ運用するときと同じユーザアカウントでインストールしてください。なお、そのユーザアカウントは、Administrators グループと Backup Operators グループに所属している必要があります。
- ・本製品に含まれている「BrightStor Portal Ready」はサポートしていません。インストール時の「製品の選択」画面で、[BrightStor ARCserve Backup]-[サーバ]を展開し、「BrightStor Portal Ready」を選択解除してから、インストールしてください。
- ・インストール時に設定する「データベースの選択」では、「標準データベース」を選択してください。
- ・インストール時に設定する「caroot」のパスワードには、スペースを含む文字列は使用できません。ただし、パスワードを設定しなくても使用可能です。
- ・本製品のリモートインストールを行った場合、インストール時に設定した「caroot」のパスワードを ARCserve マネージャホーム画面の「デフォルトサーバの変更」メニューで、再度登録してください。
- ・Windows 2000/Windows Server 2003 環境へ本製品をインストールした後、必ず OS を再起動してください。

- ・本製品のアンインストール時に、BrightStor ARCserve Backup エンジン（ジョブ、テープ、データベース）が稼動していると、アンインストールに時間がかかる場合があります。あらかじめ各エンジンを停止してください。
- ・テープライブラリ装置を使用している環境において、ドライブにメディアが挿入されている状態でデバイス環境設定を起動すると、正常に動作しない場合があります。あらかじめ、メディアを元のスロットに戻してください。

2. バックアップ運用時の留意事項

- ・バックアップメディアをドライブに挿入したままにしておくことでヘッドに汚れが付着しやすくなり、メディア破損やハードウェアエラーの原因となります。バックアップ操作オプション「バックアップ終了後にメディアをイジェクト」チェックボックスを、チェックして運用することを推奨します。このオプションをチェックすると、バックアップ終了後、メディアがイジェクトまたは元のスロットに戻ります。
- ・メディアエラーが発生したメディアは、以後のバックアップ運用では使用しないでください。特に追加バックアップをしている場合、必要なデータがリストアできないことがあります。
- ・CA 社製以外のウイルスチェックソフトをご使用の場合には、バックアップオプションの「ウイルススキャンを実行する」を無効（チェックをはずす）にしてください。ウイルススキャン機能が重複して動作すると、バックアップに時間がかかります。
- ・バックアップジョブ作成時、レジストリ情報をキー単位でバックアップする場合は、ソース画面の“マシン名”配下に表示される「レジストリ」を選択してください。ファイル単位でバックアップする場合はシステムドライブまたは「システム状態」を選択してください。なお、“マシン名”をバックアップ対象として選択した場合、「レジストリ」も自動的に選択されますが、このときのレジストリ情報はファイル単位でバックアップされます。
- ・ドライブ文字を割り当てたマウントポイントのバックアップを行うと、マウントされたドライブ上のディレクトリ構造だけがバックアップされ、実際のデータ（ファイル/ディレクトリ）は割り当てられたドライブのバックアップセッションとしてバックアップされます。
- ・Windows Server 2003 の VSS（ボリューム シャドウコピー サービス）を利用したバックアップは、Client Agent for Windows を使用した、リモートバックアップ時のみ対応します。BrightStor ARCserve Backup 単体でのローカルバックアップでは対応していません。

3 . リストア時の留意事項

- ・フォルダの監査情報はリストアされません。
- ・システムのフルリストアを行った場合、%SystemRoot%\System32 フォルダ内に、「ACT\$~」というファイルが作成されます。本ファイルはアクティブファイルであり OS 再起動後に元のファイル名に置き換えられます。
- ・ Windows NT 環境をフルリストアする場合は、以下の手順で行ってください。
 - (1) フルバックアップデータを、リストアオプションの「レジストリファイルおよびイベントログのリストア」オプションをチェックしてリストアします。
 - (2) システムを再起動します。
 - (3) ディスクアドミニストレータより、ドライブ文字を確認します。異なっている場合は、再度ドライブ文字を設定しなおします。
- ・ Windows 2000/Windows Server 2003 の Active Directory 環境において、操作マスター (FSMO) の役割を担うサーバのフルリストア (システム状態のリストア、レジストリのリストア) は行わないでください。リストアジョブは完了しますが、リストア後の環境で Active Directory 情報の不整合が起こる可能性があります。なお、Active Directory の復旧に関しては、以下をご参照ください。

《Microsoft 社 ホワイトペーパー: Active Directory™ 障害復旧ガイド》

<http://www.microsoft.com/japan/windows2000/library/operations/activedirectory/addrstep.asp>

- ・ MetaFrame 環境へのフルリストアを行うと、アクティビティログに以下の警告メッセージが記述されます。これは、MetaFrame のライセンスサーバデータベースがリストアできない仕様となっているためであり、その後のシステム動作に影響はありません。

W3402:ファイルを作成できません(ファイル=M:%WINNT\System32\Lserver. エラー=PATH NOT FOUND)

- ・ 旧バージョンの ARCserve でバックアップしたデータをリストアする場合、ユーザデータのみリストア可能です。「レジストリ」や、「システム状態」セッションはリストアできません。

4 . その他の留意事項

- ・ Windows 2000/Windows Server 2003 環境において、新たにバックアップ装置を追加した場合は、「デバイス環境設定」 - 「デバイスの有効 / 無効(RSM対応)」オプションを選択し、リムーバブル記憶域の管理を無効 (チェックをつける) にしてください。

また、ARCserveをアンインストールする際には、事前に「デバイス環境設定」
- 「デバイスの有効 / 無効(RSM対応)」オプションを選択し、リムーバブル記憶域の管理を有効(チェックをはずす)にしてください。

- ・ 「デフォルトサーバ情報」ダイアログボックスにおいて、「セキュリティ情報」の caroot の「この情報を保存する」チェックボックスのチェックは解除しないでください。
- ・ サーバ管理マネージャにおいて、「管理」メニューの「マルチ ネットワーク カード」ダイアログボックスで、MSCS の仮想 IP アドレスは選択しないでください。
- ・ フィルタオプションは、2 バイト文字 (全角文字) をサポートしていません。
- ・ フィルタオプションの、ファイル / ディレクトリパターンで、アルファベットの大文字 / 小文字は区別されません。
- ・ ジョブの実行中に、ジョブのキャンセル (停止) を行うと、ジョブ終了までに時間がかかります (5 分以上)。この間バックアップ装置を使用できません。
- ・ コピーユーティリティでは、暗号化ファイル (EFS) をコピーできません。
- ・ 本製品で使用できるパスの長さは、マシン名およびドライブ文字を含め、最大 250 バイトです。
- ・ MTF フォーマットのメディアは、メディア名が全角 11 文字 (22 バイト) 以内である必要があります。この制限を超えているメディアは、マージおよびリストアできません。
- ・ ジョブの実行中やテープデバイスの操作中に、サーバ管理の環境設定から、テープエンジンのメッセージレベルを設定しないでください。メッセージレベルの設定は、デバイスが使用されていない時に行ってください。
- ・ ネットワーク環境にルータ装置がある場合、ルータを越えた別セグメントにある ARCserve サーバを自動認識できない場合があります。
- ・ ARCserve マネージャの画面から、CA 社 (日本・米国) の Web サイトにアクセスできます。接続形態によっては、課金がかかりますのでご注意ください。

Disaster Recovery Option

1 . OS 共通の留意事項

- ・ 復旧を行う際に使用する OS の CD-ROM として、マシンに添付されているリカバリ CD は使用できません。
- ・ OS のセットアップディスクをコピーする際、「copy」コマンドや「xcopy」コマンドは使用しないでください（マシンを起動するための情報が格納されません）。セットアップディスク作成用のコマンド（「makebt32」や「winnt32/ox」等）を使用してください。
- ・ 特定のサーバ用のブートディスク方式で作成したブートディスク、Bootable CD 方式による復旧用の Machine Specific Disk は、フルバックアップを行う度に、更新（特定のサーバ用のブートディスク方式を使用する場合）または、Machine Specific Disk の再作成（Bootable CD 方式を使用する場合）を実行する必要があります。
これらのディスクには、フルバックアップ時のパーティション情報、復旧に使用するメディアの情報が含まれるため、更新作業を行っていないブートディスクまたは、Machine Specific Disk を使用して復旧すると、そのディスクを作成した時点の最新フルバックアップから復旧されます。
- ・ バックアップ時と同じハードディスクに対して復旧を行う場合、復旧を開始する前にハードディスクをフォーマット（物理フォーマット等）してください。未フォーマットの状態で復旧を行った場合、フルバックアップ後に作成されたファイルが復旧後に残る場合があります。
- ・ Disaster Recovery Option による復旧の過程で、ハードウェア RAID の初期化、メンテナンス区画（EISA 区画）の作成は行われません。新品のハードディスクや、物理フォーマットしたハードディスクを使用する場合、あらかじめこれらの作業を行ってから復旧を開始してください。
- ・ ServerStart からメンテナンス区画を作成する場合、ディスクマネージャでメンテナンス区画を作成した時点ではパーティションの作成が行われるのみで、情報は書き込まれません。データの書き込みが行われるのは、ServerStart で OS のインストールを開始した時です。
- ・ マスタブートレコードが存在しないハードディスク（新品のディスク、物理フォーマットしたディスク、ハードウェア RAID の初期化を行ったディスク等）に対して、ブートディスク方式で復旧を行う場合、「FDISK」コマンド（MS-DOS ユーティリティ）にてマスタブートレコードを作成してから、復旧を開始してください。なお、CA Bootable CD 方式で復旧する場合や、ServerWizard でメンテナンス

区画（EISA 区画）を作成した環境、ServerStart でメンテナンス区画の作成と MBR 上書きを実行した環境では、この操作は必要ありません。

FDISK / MBR

- ・ ブートディスク方式で復旧する際は、フロッピーディスクのライトプロテクトを解除してください。
- ・ ローカルマシンの復旧後、BrightStor ARCserve Backup マネージャを起動すると、復旧に使用したフルバックアップジョブのステータスは「クラッシュ」と表示されます。「レディ」に再設定してご使用ください。
- ・ テープライブラリ装置を使用している環境で、Disaster Recovery Option を用いた復旧を行った場合、装置によってはテープがドライブに入ったままの状態になります。復旧後、最初のテープエンジン起動時にクイック初期化が行われるとドライブに入っていたテープを認識できない場合があります。その際は、一旦、デバイス環境設定から「テープ / オプティカルライブラリの環境設定」を行い、クイック初期化を無効に設定してから、テープエンジンを再起動してください。通常のライブラリ装置初期化が行われ、ドライブ内のテープを認識します。
- ・ テキストモードセットアップで、ディスクに 8MB 以上の空き容量が認識された場合、復旧処理完了後に、最後のドライブが 8MB 拡張される場合があります。

2 . Windows NT 4.0 環境の留意事項

- ・ バックアップ装置が接続されているリモートマシンに対して Disaster Recovery による復旧は行えません。この場合は、リモートマシンのバックアップ装置を外すか、電源を切ってください。
- ・ バーコードリーダーを装備しているテープライブラリ装置を使用する場合、「デバイス環境設定」のライブラリセットアップ内の「初期化時に未登録のバーコードメディアをブランクに設定」オプションはチェックしないでください（Disaster Recovery での復旧時、メディアが正常に認識されません）。
- ・ Disaster Recovery ウィザード画面で、4GB 以上のドライブは、ドライブ文字が未割り当ての状態になります。この場合は再度、ウィザード画面上でドライブ文字およびテープセッションを割り当ててから、復旧を行ってください。
- ・ パーティションの作成が何も行われていない 8GB 以上のハードディスクに対し、一般ブートディスク方式で復旧を行うと、ディスクの空き容量を正確に表示できません。このような場合は、以下の手順で復旧してください。

- (1) Disaster Recovery Option を使用して、システムドライブのみ復旧する
- (2) OS 起動後、ドライブの作成を行う
- (3) ARCserve にて、メディアのマージおよびリストアを行う

- ・ Disaster Recovery ウィザードで、ドライブ文字 Y、Z を使用することはできません（CD-ROM ドライブと MS-RAMDRIVE に使用されます）。
- ・ Disaster Recovery ウィザードのディスク情報が表示される画面で、[作成]、[セット作成]、[削除]機能は正常に機能しないため、ご使用にならないでください。
- ・ Windows NT 4.0 環境では、Machine Specific Disk を使用しても、Disaster Recovery ウィザードでのドライブ文字の割り当てが正しく行われない場合があります。[ドライブ文字]ボタンでバックアップ時のドライブ文字に変更してください。
- ・ Disaster Recovery ウィザードの「構成情報」画面で、メディアに関する情報がすべて表示されない場合があります。マウスでドライブ部分をポイントし、ポップアップされた情報より、正しいメディアが挿入されていることを確認してください。

3 . Windows 2000 環境の留意事項

- ・ Windows 2000 環境では、Machine Specific Disk の情報に基づいて、ドライブ文字、バックアップセッションの割り当てを自動的に行います。Disaster Recovery ウィザードで、ディスクの情報が表示される画面では、[すべて元に戻す]、[割り当ての解除]、[戻る]、[次へ]、[キャンセル]のみ使用可能です。
- ・ ブートディスク方式での復旧を行う際は、ブートディスク作成時と同じ、OS の CD-ROM を使用してください。
- ・ 「CA Bootable CD 方式」で復旧を行う際に、[F6] キーを押して追加のドライバをインストールする場合、ドライバのインストール直後、ドライバのフロッピーディスクと Machine Specific Disk を入れ替えてから、[Enter] キーを押して復旧を続行してください（ディスク交換を促すメッセージは表示されません）。ドライバのフロッピーディスクを入れたまま復旧を続行すると、パーティションの自動設定が行われません。
- ・ Disaster Recovery ウィザードでメディアのインベントリ中に、再起動を促すメッセージが表示された場合は、インベントリが終了してから、[OK] ボタンをクリックし、再起動してください。
- ・ テープライブラリ装置を使用して復旧を行う際、Disaster Recovery ウィザードは、ライブラリ内にあるすべてのメディア（クリーニングメディアを除く）のインベントリを行います。復旧に使用するメディア以外のメディアがスロット内にある場合、インベントリに時間がかかり、以下のメッセージが表示されます。その場合は、インベントリ終了後に、[再試行] ボタンをクリックしてください。

DR.DLL:Media not found

To continue to restore disk configuration, Please mount media:
--

<テープ名> [ID:****,SEQ?] [再試行] [キャンセル]
--

- Active Directory 情報を復旧する場合、Disaster Recovery Option で復旧を行った後、ディレクトリサービス復旧モードにて OS を再起動し、ARCserve マネージャより「システム状態」のみリストアを行ってください。なお、操作マスタ (FSMO) の役割を担うサーバの復旧は行わないでください。

4 . Windows Server 2003 環境の留意事項

- Windows Server 2003 環境では、Disaster Recovery ウィザードでメンテナンス区画 (EISA 区画) が表示されず、空き容量としてディスクの最後に表示されます。実際には存在しますので、そのまま復旧を行ってください。
- Removable Storage サービスのスタートアップの種類を「無効」に設定した環境のフルバックアップから復旧を行うと、「自動」の状態では復旧します。復旧完了後、再度「無効」に設定してください。
- FAT16 ファイルシステムのドライブは、2.1GB までサポートされます。2.1GB を超えるドライブは、OS の自動システム回復 (ASR) の制限によりサポートしません。
- 複数の LAN ドライバを使用する環境では、Machine Specific Disk が正常に作成できない場合があります。以下の技術情報を参照してください。
<http://www.cai.co.jp/resources/bab9/tec/021010751.htm>
- Windows Server 2003 上に復旧情報の複製を行う場合、複製先として指定する共有フォルダのアクセス許可リストに、複製時に使用するアカウントに対する「変更」または「フルコントロール」の許可を追加してください。Windows Server 2003 では、新しく共有設定を行ったフォルダのデフォルトのアクセス許可が「Everyone」 - 「読み取り」のみであるため、そのまま複製先に指定すると、情報の書き込みができません。
- Windows Server 2003 環境では、Machine Specific Disk の情報に基づいて、ドライブ文字、バックアップセッションの割り当てを自動的に行います。Disaster Recovery ウィザードで、ディスクの情報が表示される画面では、[すべて元に戻す]、[割り当ての解除]、[戻る]、[次へ]、[キャンセル]のみ使用可能です。
- Active Directory 情報を復旧する場合、Disaster Recovery Option で復旧を行った後、ディレクトリサービス復旧モードにて OS を再起動し、ARCserve マネージャより「システム状態」のみリストアを行ってください。なお、操作マスタ (FSMO) の役割を担うサーバの復旧は行わないでください。

5 . MO 装置が接続された環境での留意事項

- ・ 復旧を行う前に MO 装置からメディアをイジェクトしてください。
- ・ MO 装置が接続されている環境を復旧する際、パーティション情報が RAW パーティションとして表示され、復旧できないことがあります。その場合は、以下の方法で復旧を行ってください。
 - (1) ファイルシステムが「RAW」と表示されているドライブを選択します。
 - (2) [割り当ての解除]をクリックして、セッションの割り当てを解除します。
 - (3) 「RAW」のドライブに割り当てられているセッションがなくなるまで上記を繰り返します。
 - (4) [次へ]をクリックします。
 - (5) [惨事復旧の開始]をクリックしてリストアを実行します。
 - (6) リストアが完了したら、終了して OS を起動します。
 - (7) OS が起動したら、セッションの割り当てを解除したドライブを「コンピュータ管理」等から、バックアップ時のファイルシステムでフォーマットします。
 - (8) (リモート復旧の場合は、(9)に進んでください)ローカル復旧の場合は、復旧に使用していたテープをマージします。
 - (9) セッションの割り当てを解除したドライブをリストアします。
- ・ Windows NT 4.0 環境を復旧する際、Disaster Recovery ウィザードで、MO 装置に対して、バックアップ時とは異なるドライブ文字が割り当てられ、変更できない場合があります（MO 装置のドライブ文字は、復旧終了後、OS の再起動時には元に戻ります）。これが原因で、ハードディスクドライブに対して正しいドライブ文字の割り当てができない場合、以下のいずれかの方法で復旧してください。

《方法 1》

ドライブ文字を割り当てられないハードディスクドライブに対して、バックアップ時に使用していなかったドライブ文字を一時的に割り当てて復旧し、復旧終了後、OS が起動したらドライブ文字を変更します。

《方法 2》

- (1) Disaster Recovery Option を使用して、ドライブ文字を割り当てられないパーティション以外を復旧します。
- (2) 復旧終了後、OS が起動したら、復旧できなかったドライブに正しいドライブ文字を割り当て、フォーマットします。
- (3) ARCserve にて、メディアのマージおよび、復旧できなかったドライブをリストアします。

6 . その他の留意事項

- ・ 以下の環境は未サポートです。
 - ・ MSCS 環境の復旧
 - ・ SafeCLUSTER/Compact 環境の復旧
 - ・ Windows XP 環境の復旧

- ・ Storage Area Network (SAN) Option を使用する環境での SAN メンバサーバの復旧 (SAN プライマリサーバの復旧のみサポート)
 - ・ SafeCLUSTER/HA for Oracle または SafeCLUSTER/HS Manager for OPS 環境
- ・ 以下の機能は未サポートです。
- ・ ブートテープ方式 (Bootable Tape Disaster Recovery 機能または One Button Disaster Recovery 機能)

Image Option

- ・本製品は、比較的サイズの小さなファイルが大量に存在する環境で使用した場合に、パフォーマンスの向上が見込まれます。全ての環境において、バックアップ速度の向上を保証するものではありません。
- ・本製品のアンインストール後は、必ずマシンを再起動してください。
- ・システムドライブのイメージ バックアップ/リストアは行わないでください。
- ・ソフトウェア RAID (スパン、ストライプセット、ミラー、RAID5) ボリュームはイメージバックアップ/リストアできません。
- ・イメージバックアップでは、スナップショット機能により、オープン中のデータベースファイル (Oracle / SQL / Exchange / Lotus Notes 等) もバックアップされますが、これらのファイルをリストアしても、使用することはできません。データベースのオンラインバックアップは、各データベースに対応した、Backup Agent 製品をご使用ください。
- ・イメージバックアップを行う場合、chkdskなどのコマンドで、事前にファイルシステムの整合性を確認することをお勧めします。
- ・5万ファイルを超える NTFS ボリュームをバックアップする場合には、「ファイルスキャンのスキップ」オプションを使用することをお勧めします。
- ・イメージバックアップ/リストアを行うには、マシン上に2つ以上のボリュームが存在している必要があります。これは、バックアップ対象ボリューム以外の領域に一時作業領域を作成するためです。
- ・イメージバックアップは、メディア管理の設定やローテーションスキーマの設定に関係なく、常にバックアップ方式「全体 - アーカイブビットを残す」で実行されます。
- ・「メディア単位でリストア」方式でのリストアはできません。
- ・イメージリストアでは、指定したリストアオプションに関係なく、常にリストア先ボリュームを上書きします。選択したリストア先が正しいことを確認してから、リストアを実行してください。
- ・バックアップ/リストアのグローバルオプションの中には、本製品で使用できないものがあります。詳細についてはオンラインドキュメント「Image Option ユーザガイド」第2章をご参照ください。

- ・イメージバックアップセッションのスキャンを行う際に、ログオプションの「全アクティビティ」を選択した場合、ジョブログ上でディレクトリ等を正しく表示できません。

Backup Agent for Oracle

- ・本製品は、Windows Server 2003 に対応していません。
- ・ARCserve マネージャおよび、Client Agent を本製品と同じマシンで使用する場合、本製品をインストールまたはアンインストールする前に、これらを停止してください。
- ・Oracle の「internal」もしくは同等の権利を持ったログイン ID でインストールしてください。
なお、Oracle 9i の場合は「internal」は使用できません。「system」もしくは同等の権利を持ったログイン ID でインストールしてください。
- ・本製品インストール前に、「BrightStor Discovery Service」サービスを停止し、インストール後、再起動してください。
- ・Windows 2000 ドメインコントローラ環境の Oracle 8.1.7 をバックアップする場合、インストール後、以下のとおり設定を変更してください。
 - (1) プログラムグループの管理ツールから 「コンピュータの管理」 を起動します。
 - (2) 「サービス」 から [BrightStor AB Job Engine] サービスを停止します。
 - (3) [BrightStor AB Job Engine] サービスの右クリックメニューより、プロパティを選択します。
 - (4) プロパティ ウィンドウで 「ログオン」 タブを選択し、ログオンを 「ローカルシステム アカウント」 から 「アカウント」 へ変更します。次に、アカウント、パスワードに 「Administrator」 とそのパスワードを入力します。
 - (5) [BrightStor Backup Agent RPC Server] サービスに対しても同様に、(2)~(4)を行います。
 - (6) [BrightStor AB Job Engine] 、[BrightStor Backup Agent RPC Server] サービスを起動します。
- ・Backup Agent を Oracle Recovery Manager と併用する場合、Backup Agent をインストールした後、Oracle サービスを再起動してください。
- ・RMANサポートを使用する場合、Oracle Agent RMAN環境設定で「Backup サーバユーザ」に「caroot」、「Backup サーバドメイン」に「Backup サーバ名」を指定してください。
- ・Oracle RMANサポートを使用している環境で、本製品のアンインストールを行う場合、アンインストール前に「OracleService<SID>」サービスを停止してください。

- Backup Agent でのバックアップ対象データは、データベースのみです。Oracle のシステムファイルはバックアップされません。Oracle 環境の作成 / 変更後は、Oracle を停止した状態で、マシン全体をフルバックアップ（オフライン）してください。
- リストア時に、コマンド「recover database using backup controlfile」を実行した場合は、コマンド「alter database open resetlogs」でデータベースをオープンしてください。また、回復が完了した後に、アーカイブ REDO ログファイルをすべて削除してください。
- Oracle 9i をご使用の場合、復旧時のコマンド入力時は、「SVRMGR」ではなく、「SQLPLUS」を使用してください。
- クラスタ環境でご使用の場合、フェールオーバー後、[BrightStor Backup Agent RPC Server]サービスを再起動してください。

Backup Agent for Microsoft SQL

- SQL Server をアップグレードする場合、アップグレード前に本製品をアンインストールし、アップグレード後、再インストールしてください。
- 異なる SQL Server バージョン間でのバックアップ / リストア (SQL Server 7.0 でバックアップしたデータを SQL Server 2000 にリストアする等) はできません。
- SQL Server のバージョン切替え、および複数バージョンの同時使用 (SQL Server 7.0 と SQL Server 2000 など) には対応していません。
- Microsoft SQL Server の Backup コーティリティでバックアップしたメディアを、本製品でリストアすることはできません。
- 文字セット、または並べ替え順が違うマシン間でのバックアップ / リストアはできません。
- 本製品でのバックアップ対象データは、オンラインデータベース (システムデータベース、ユーザデータベース) のみです。SQL Server のシステムファイルはバックアップされません。SQL Server 環境を作成 / 変更後は、SQL Server を停止した状態で、マシン全体をフルバックアップ (オフラインバックアップ) してください。
- テーブル単位でのバックアップ / リストアは行えません。
- システムデータベース (master、msdb、model、distribution) は、差分バックアップ / リストア、トランザクションログバックアップ / リストア、ファイル / ファイルグループ単位のバックアップ / リストアはできません。データベース全体のバックアップ / リストアを行ってください。
- バックアップマネージャでデータベースの情報が表示されますが、使用データサイズ、使用ログサイズなどの情報は、リアルタイムで更新されない場合があります。
- データベースのリストアを行う場合、対象となるデータベースが他のユーザによって使用されていないことを確認してください。
- 「部分的にリストア」オプションは、現在サポートしていません。
- クラスタ環境において、仮想 MS SQL サーバアカウントの設定を変更する場合、「SQL Server DB Agent 環境設定」を行ってください。

Backup Agent for Microsoft Exchange

- ・本製品は、Windows Server 2003 に対応していません。
- ・ブリックレベルバックアップ（メールボックスやフォルダ単位でのバックアップ）は、データベース単位でのバックアップに比べて、バックアップに非常に時間がかかります。ブリックレベルバックアップは、重要なメールボックスのみにする等の運用をお勧めします。
- ・本製品でのバックアップ対象データは、オンラインデータベースのみです。Exchange Server のシステムファイルはバックアップされません。Exchange Server 環境の作成 / 変更後は、Exchange Server を停止した状態で、マシン全体のフルバックアップ（オフライン）を行ってください。
- ・データベースのリストアを実行する前に、リストア対象のデータベースをディスクマウントしてください。
- ・リモートサーバ上の Exchange データベースを [ツリー単位でリストア] 方式でリストアする場合、リストア マネージャの [Microsoft Windows Network] ツリーから、リストアするデータベースを選択してください。

Backup Agent for Lotus Notes

1 . 各 Version 共通の留意事項

- ・本製品は、Windows Server 2003 に対応していません。
- ・旧バージョンの ARCserve や、Backup Agent がインストールされているマシンに本製品をインストールする場合、あらかじめこれらをアンインストールしてください。

(注) BrightStor ARCserve 2000 Backup Agent for Lotus Notes をアンインストール後、レジストリキーが残る場合があります。その場合、レジストリエディタを使用して、「HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥ComputerAssociates¥CA BAOF」キーを削除してからインストールしてください。

- ・本製品は、「Lotus Notes / Domino Agent, BAOF Version」、および「Lotus Notes / Domino Agent, NA Version」の 2 種類があり、インストール時にどちらかを選択する必要があります。各製品の違いは以下のとおりです。

《Lotus Notes / Domino Agent, BAOF Version》

Backup Agent for Open Files テクノロジーを使用して、オンラインデータベースをバックアップします。本バージョンでは、トランザクションログのバックアップは未サポートです。

《Lotus Notes / Domino Agent, NA Version》

Lotus Domino R5 および R6 の、Backup/Recovery API を利用して、オンラインデータベースをバックアップします。本バージョンでは、アーカイブトランザクションログのバックアップ / リストアが可能です。

- ・「Lotus Notes / Domino Agent, BAOF Version」から、「Lotus Notes / Domino Agent, NA Version」への変更（またはその反対に変更）を行う場合、本製品を一旦アンインストールしてから、再度インストールしてください。
- ・Domino アドバンスドサービス（Domino クラスタ、パーティションサーバ、課金機能等）は未サポートです。
- ・リモートインストール時に、リモートマシンの再起動が必要になる場合があります。画面の指示に従い、再起動してください。
- ・Backup Agent でのバックアップ対象データは、データベースのみです。Lotus Notes/Domino のシステムファイルはバックアップされません。Lotus Notes/Domino 環境の作成 / 変更後は、Lotus Notes/Domino を停止した状態で、マシン全体をフルバックアップ（オフライン）してください。

- ・ Shift-JIS (Microsoft によってサポートされた日本語文字セット) と Unicode 間で、1 対 1 に対応しない一部の文字 (例: “ ”、“ ” などのローマ数字) をファイル名またはディレクトリ名に使用している場合、バックアップに失敗することがあります。これは、Microsoft Win32 SDK の制限によるものです。

2 . 「 Lotus Notes / Domino Agent, BAOF Version 」 の留意事項

- ・ データベースを新規に作成した場合、そのデータベースをフルバックアップしてください。
- ・ トランザクションログのバックアップはサポートしていません。トランザクションログを設定している場合は、「 Lotus Notes / Domino Agent, NA Version 」をご使用ください。
- ・ Notes/Domino データベースの差分 / 増分バックアップ運用を行わない場合、以下の 2 つのデバイスドライバは必要ありません。「無効」に設定してください。

CA File System Monitor (FSM)
CA File Change Recorder (CAFRCR)

3 . 「 Lotus Notes / Domino Agent, NA Version 」 の留意事項

- ・ Lotus Domino Agent, NA Version を使用する場合、トランザクションログは「アーカイブ」スタイルを設定してください。
- ・ バックアップジョブを正常に実行するためには、Lotus Domino データベースを保存するディスクに、最大の Domino データベースと同等の空き容量が必要です。
- ・ Lotus Notes / Domino Agent, NA Version にて「フルバックアップ」を行うと、すべてのデータベース、およびトランザクションログがバックアップされます。また、「増分バックアップ」を行うと、トランザクションログのみバックアップされません。
- ・ データベースが新しいデータベースインスタンス ID (DBIID) を受け取った場合は、データベースのフルバックアップを行ってください。

Backup Agent for Open Files

- ・本製品のライセンス登録は、ARCserve マネージャのライセンス登録ツールからは行えません。BAOF (Backup Agent for Open Files : 以後 BAOF と略記) コンソールの「バージョン情報」ダイアログボックスから「ライセンスの確認」を起動して登録してください。
- ・システムがロックしている一部のファイルや、ARCserve データベースファイル等のオープンファイルに対して、ジョブ実行後のアクティビティログにバックアップを許可した旨のメッセージを記録する場合があります。これらのファイルをバックアップの対象として選択していない場合は、BAOF によるアクセス許可が行われただけで、実際のバックアップは行われません。
- ・ダイナミックボリューム環境において、同一のファイルに対し、バックアップ許可のメッセージを複数記録することがありますが、動作に問題はありません。
- ・ウイルス保護ソフトウェアのリアルタイム検出を使用している環境で、バックアップを行う際には、リアルタイム検出機能を停止してください。この機能が有効になっている場合、BAOF はバックアップ対象のファイルをオープンファイルとみなして、バックアップ許可メッセージをログに記録します。対象ファイルが多数の場合、ログメッセージが非常に大きくなる可能性があります。
- ・Client Agent for Windows を併用して、リモートマシンのバックアップを行う場合、Client Agent for Windows の環境設定で「ボリュームシャドウコピーを使用する」チェックボックスはチェックしないでください。
- ・バックアップの途中で処理を停止させた場合、BAOF コンソールの「状態」の「リリース」をクリックし、データの更新を行ってください。本操作を行わないと一定時間（「グループ非アクティビティタイムアウト」で設定した時間）古いデータを保持し続けます。

Network Attached Storage (NAS) Option

- ・バックアップ対象となるボリュームの文字コードは S-JIS に設定してください。
- ・デバイス環境設定を行う際は、テープデバイスの自動検出は使用せず、手動でデバイスの割り当てを行ってください。割り当てを行うテープデバイス（チェンジャ）の論理名は NAS サーバで「sysconfig -t」「sysconfig -m」を使用してください。
- ・NAS サーバの再起動を行った場合、テープエンジンを再起動してください。
- ・NAS サーバから、別の NAS サーバに接続されたデバイスへのバックアップ / リストアはできません。
- ・本製品をアンインストールした際には、テープエンジンを再起動してください。再起動を行うまで、NAS サーバに接続されたデバイスの情報は削除されません。
- ・フィルタオプションは、バックアップ時のみ有効です。
- ・バックアップの際、対象ボリュームにスナップショットを作成する容量がない場合、バックアップに失敗します。
NAS サーバの設定画面内の「FilerView」-「Volume」-「snapshot」で対象ボリュームのスナップショットを削除し、容量を確保してから再度バックアップを実行してください。
- ・リストアを行う際は、「同名のファイルに対する処理」オプション設定（「オプション」-「ディスティネーション」タブ-「同名のファイルに対する処理」）で、「すべてのファイルを上書きする」を選択してください。「すべてのファイルを上書きする」以外のオプションを選択した場合、リストアに失敗します。
- ・リストア先に同名のファイルが存在する場合、それらのファイルがオープン中であることを確認してからリストアを実行してください。オープン中のファイルはリストアされませんが、エラーメッセージは表示されません。
- ・リストアを行う際には、リストア先のボリュームの空き容量を十分確保した上で、リストアを実行してください。空き容量が不足している場合、リストアに失敗しますが、エラーメッセージは表示されず、ジョブステータス画面での「前回の結果」も「完了」と表示されます。（ONTAP6.3.1のみ発生）
- ・バックアップ時のボリュームが存在しない環境で「ファイルを元の場所にリストア」オプションを使用してリストアを実行した場合、別の場所（¥¥マシン名 ¥CS¥vol 配下）にデータがリストアされます。

Client Agent for Windows

- ・ Windows XP および Windows Server 2003 をご使用の場合、ARCserve サーバから Client Agent に接続する際に使用するユーザアカウントには、必ずパスワードを設定してください。パスワードを設定していない場合、Client Agent に接続できません。
- ・ Windows NT 4.0 および Windows 2000 上に本製品をインストール後、OS を Windows Server 2003 にアップグレードした場合、いったん本製品をアンインストールしてから、再インストールを行ってください。
- ・ Client Agent for Windows 9x / Me を旧バージョンからアップグレードする場合、必ず以下の手順で行ってください。
 - 《ARCserve IT 6.61 からのアップグレード》
ARCserve IT 6.61 をアンインストール後、本バージョンをインストールしてください。
 - 《ARCserve 2000 からのアップグレード》
ARCserve 2000 がインストールされている環境に、上書きインストールをしてください。
- ・ Client Agent for Windows 9x / Me のリモートインストール、およびレスポンスファイルを使用したサイレントインストールはサポートしておりません。
- ・ プロアクティブバックアップを行う場合、Client Agent での環境設定の他に、ARCserve サーバ側で以下の操作を行ってください。
 - (1) デバイス管理マネージャを起動します
 - (2) 「デバイスグループ環境設定」にてグループ名を選択後、「プロパティ」をクリックします
 - (3) 「プロアクティブバックアップの許可」チェックボックスをチェックします
- ・ Backup Agent for Open Files を併用する場合、Client Agent の環境設定において、「ボリュームシャドウコピーを使用する」チェックボックスをチェックしないでください。誤動作の原因になります。

Client Agent for Linux

- ・本製品のインストール手順は、プロダクトインストールブラウザに表示される、「製品のインストール」 - 「BrightStor ARCserve Backup Client Agent for Linux のインストール手順」をご参照ください。
- ・本製品に同梱されている Client Agent for Linux 以外の ARCserve 製品は、すべて Windows 用です。Linux マシン上ではご使用になれません。
- ・Linux システムのバックアップ / リストアはサポートしていません。
- ・Client Agent for Linux は自動起動しません。システム起動後、root ユーザにてログオンし、以下のコマンドを実行してください。なお、自動起動させる場合は、システム環境に合った起動スクリプトに以下のコマンドを追加してください。

```
# uagent start
```

- ・Client Agent for Linux のホスト名が 16 文字以上の場合、オートディスカバリ機能で、検出できません。「hostname」コマンドを実行して、ホスト名が 15 文字以下であることを確認してください。
- ・リストア対象に、「/dev」ディレクトリが含まれている場合、リストア終了後、すぐにリブートしてください。リブートをしない場合、swap パーティションにアクセスできない場合があります。
- ・RAW ファイルシステムをリストアする場合、「ファイルを元の場所にリストア」オプションは使用せずに、リストア先をフルパスで指定してください。